



卷中十卷

歌臺

一丁

卷中十二

歌臺

十七丁

卷中十二

歌臺

二十丁

古今集巻鏡

四



古今和歌集卷第十一巻

恋歌一

歌一

よみ人あはれ

郭公のこゝろやいづれもあや先葉のやもあはれもささるる式

○上 ドウヤウナワケナ物ヤラマダラスニワヤアムチヤナ恋ヲスルカト

素性法師

よふのこゝろは白きよらハおきてゆくハ思ひ小つとどろぬへし

○多ニキクバカリデの白きマダヌタモナイ人ヲ思ウテ夜ハ子ヲレ

子バオキテ居テ昼ハ又恋シサニコタヘイテ消サウニ思ハル

紀貫之



よー世川 雲はあかくゆーあけまやくぞんぞんひと先にし
○上 アソ人ヲオレヤトウカラサ思ヒツメタ 又オレガアソ人ヲ思ウハサイ
シヨカラモウを世川ノ子衆ノヤウニヤルセモナウ思ウ
。子秋云後の譯乃
せきぞうゆつゝ。あまらつぎの中あゆ
よどいありてよとぞう。うまのこまこ。

藤原 清長

ふ浪のゆゆゆきかふゆゆゆき風どこよりあそふちりゆ
○浪ノ上ノ人ノトホツタ跡モナイ方ヘイク舟テモ 風ト云物ガサ手ヨリノ
業内者ギヤ ツレニワガまハソナ風ノヤウナ夕ヨリニセウ物サナイワイ
竹材おすとのふららー 例をもてまらー
左京 左方

多ね山おしふつていふ極の雲けらうこお年成あさうけ

○多ね山おしふつていふ極の雲けらうこお年成あさうけ
ニキ、ナガラ 冥ガアツテコエラレ子バコチラニガツトレツテ居ルヤウニを板ト
云名ノヤウニ思フスニ色一モエセズニ年モタテルカナサテモ早ウをモタイ
まらりゆゆきを思ふよそを思ふもくふゆゆあきゆあきゆあきゆ
○バヤウニヨソニハナレテ居テモ 心ハジヤウヂウカスノ所ハツカリイテ居バ
つね浪 又シテモくアハヒをタイコヤトサ思カ 打すいゝららし

ゆきゆき

世中ハかくくそ有りれあく風のめふあぬ人もあしかりりり
○ヨノ中ト云モノハアアカウシターチヤワイ ニアアテテトサレ 三ニ夕一目モ

海ふまみそつゝるきき つゝゆき

山極底のまゝらうしほのうももさししんそあひかりり

○山ノ極ノ花ヲ底ノアヒダカラ見ルヤウニウスくと見タ人ガサ

アアサテくゑしーチヤワイ

野ーらげ もーか

あふらとあもゆぬ思ひ乃あやし記きんそふつるなりり

○何ゾノタヨリニコソ物ハコトツケテヤルモノナレタヨリデモナイハワガ

思ヒノガハツタコトハヤウニ思フ心ヲソノ人ニツケルチヤワイカウイフハ

タヨリニ物ヲコトツケルト心ヲ人ニツケルトネト詞ガ同じチヤヨツテサ

飾材とあーしあはいふねるをこととすらりか

元海内躬恒

そり居のそつふをばしとち中そあのを抱きあひり

○そら遊テイク始メテノ原ヲ声ヲサウニ人ノ声ヲハツクニチヨツト

すテカラ心ガヒタスラウテウテニカツテサアちく 抱思ヒヲスルチカナ

ほーゆき

をさうハせわらうくふねる絆のまふきつゝらひりり

○コレホドゑしウ思ウケレバナカくゑハレサウナモヤウハまいーデ

タビヤノ中デ叫ルカミナリノまいりヨリカラサヤウニまッ

カリすテ月日ヲタテルコトカナ

よみびとーらど

かき多岐の...
 ○一筋ヅノ系ヲ合せて玉ヲツナグ緒ニヨラウト思ウテソノ系ヲアチ
 ラヘコチラヘトヨリカケテモシソガツニ合イテ緒ニチラスバ玉ツナグ緒ニハ
 何ヲセウヅワシカモモテウドソチ物デハヤウニウクトスレモシシ
 ジウモズバドウシテ今ガツカウヅ
 餘材チササカふニの句
 の...
 へ...男女...
 タ...
 ○ユカタニ...旗手ト云テイロクノ雲ガタヲ物チヤガテウドソノモ
 ノタツネノヤウニ...手がかりモナイモイ人ヲモウテワハユカタニチレバ

ソノモウハタテノヤウニイロクサバトサ物思ヒヲシニスル
 かりあとの思ひみづれてマがらふと妹...
 ○^{カク}対タマコモノミダレヤウニワニイロクト心ガミダレテハヤウニ思フト云テ
 妹ハ知ラウカイ人ガ云テキカサズバコレホドニ思フトハ知ッバマイ
 つ...
 ○^三オキルト云テハナゲキ子ルト云テハシタウテアノアイソモナイモツヨ
 イ人ヲバヤウニ思ウカヤサテモチチラシイヤドウゾ思ウマイブ
 ち...
 ○^上ワシハ一日モオヘノララ云ダシテ思ハヌ日ト云ハナイ
 ...

死スルト云テモ 吉世川ノヤウニ暮ニタテ人ニハシラレマイヅ

もぎつをば申すも後をいつてよをねどあまの御神とあるま

○山川ハ早イおナレドツレテモもろニハ割カアツテヨドム取モアルト云フヂ
ヤニワガ島ハナゼニ割ギヤ隙ヤト云ワカキモナニイツモ子隙ヤウチーヅイ
ふるそトゆくあはあふのこ流まてしひきまひいふあぬとも

○山がさサニ上ノ方ヲバイカズニトノ谷バツカリ流レルもノトホリニウレモ
タトヒハ分デコヒジニ死ヌルト云テモウハベアラハハスマイヅ イツ
マテモ心ノ内デバツカリヌウテ居ヨウヅ

あひ物とまきはのふ乃いそつじいそびぐそあもあしきおを
○の山の 三 はへおシテイハヌテヨスアレ思ヒタタ時ハツく急シイおラ

人ろとび思へむくろくれあかの束つむ花の多ふいでもかむ

○人ニシラサズニ心ノ内デバツカリ思ウテ居レバキウウジユウナイ コレデハ
ドウモタマラヌホドニ 三四 イウツウ 五 ウチダシテノケウ

秋の夢は尾花ふまじくもさむものつゆもやあむあすしとるを

○イヤウニウチデバツカリ思ウテ居テハトテモドウシテモカウレテモ
逢レサウナモヤウガナサニ シ ア シ テ ス レ バ 上 四 イウツウウチダシテカ、
ラウカイ 上ウおアの尻より

マがそのく梅はほづえふさるはねーねきぬへきさるすさる

○アレコチノ花ノ木ノちイ枝テガガナクガワシモアノヤウニ声ラア
ゲテナキモセウヤウニ思レルホドノ急ラアスル アラレモナイカナ

○イヤサコシキ程多クソノヤウニトガメテトサレナイワニ大キナ舟ノ浪ニエラレル
ヤウニ物思ヒテウカラクトシテ居ルセツチヤスヤチチナカクツキニスルハズギヤ
いせの海小釣さるあはれけしきとるれや心むしつとをけいぶあかひつる
○魚ラスルウが心ハイセノ海テ捕申ノ釣ヲスルウケギヤカシテ フハラクト
ウカシテシツタト思フテモドワモシツラレヌ 釣ノウケト云モノハ浪ニエラ
レテフハラクトウキアタ物ギヤガ 心ガテウドソノヤウニサ
ワセの海乃何まのつておもうちハアアアアとのやとしい海に
○一二三ニエエニ長イ月日ヲいヤウニシツラレトヤトハツカリ思ワテ多ク
子林云あはれけしきとるれや心むしつとをけいぶあかひつる
き繩小釣の枝系はわきしはし海の中へきくうらまへおきてし

その繩をくりよせしむぎをうけ釣をうひくう魚ををとる
さびりりこも今オホくも成おがれ釣との六セ繩の釣とい
てと訛るもよよりてハおがをともりりいさうちを
てくさしつてよのつ子れ釣よまうねいぬし
海川ちみなるも成くづみらむお思ふ所のまう思なりりらと
○海川ト云川ノミナカミハトコギヤカトナセ思フタコヤラモウノミナカミハト
コテモナイ 釣ヲ思フれはワガ身チヤワイハテ海公身カラ出ルハサテ
多程しわもバズ少もねをあひふるも思とてしハあはれけしきとるれやハ
○夕子ガアバ岩へモ松ハエルワイ スヒヤナボ出来ニクイニ思チヤト云テモ
は分骨ヲ折シタテラ達ト云カガロイトコゾアハシト云ハアルイ

云一ヲ誰ニテリに流リタイ物ギヤガタニ語ラワツ 誰ニモ語ラウ人カナイ
 夫いそふもたやねあさむむはれまふつもあきんと苦と思ひ
 ○イウク早ウ来世ニナワテニハヨイニソタラハ況在目ノニハニウチイ人
 昔ノ子ヂヤト思ワウニ 昔ノ子ヂヤト思フタラコホドニワラウハ思ハレマイワサ
 けまもねきんをあふとしはるのころ人をもよひぬきはるわね
 ○アイウモナイ人ヲ思シウ思フトテワシハア 山ノ中ナラコタニヒビク
 ホドニサテ長ク大キナタメ息ヲツイテナゲイタコカナ
 幼少小ぢぢりくよりのもをうねきハ思ハぬんをありふねりけり
 ○流レテイク水ハ物ノ数ヲカキトメルハヂツキニ消テシニハナラセニ
 ナイラチノアカヌヂヤガソレヨリマキツイラチノアカヌハコチヲ思ウ

テモクレヌ人ヲコチカラバツカリ思フキヤワイロシガ思ハサウキヤワイノ
 人とあふふハふふ所ハねバヤカノまどふふふふふふふふふふふふふふふ
 ○人ヲ思シウ思ウ心ハ 我心ヂヤケレド 我心デハナイヤラシテ けふ身ノ
 一ヨウノサヘシヌ モシハ心ガキツト我心ニチガイナクハ 赤オノ一ヨウノガ
 シヌト云一ハナイハズキヤワサテ ア、思ト云モノハカハツタモノヂヤ
 おもひやほさういをさか小ねりやまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 ○人モナイハルカナ思ヘイタナラ道テをウ人モアルイガ テウドツニチモノ
 テロシガ思シイ人クヲ思ヒヤルモ心ノイク及モたてくをウナルカシラヌ
 サウカシテ アチコトト思ウテ長ラヌテモ 思フスニアウ差ハスヌ
 打聞上りねまらふぐり。

長イ月日ヲ心ノ内デツカリ思フテ子ノモエルギヤワイ

早に海ふみよめおひせむ神の海乃川ふりちりしもの

○ミルメト云モノハ海中ハエル物ギヤガソカ着川ノ子イ遊ハエテソダツ

ナラワシガ神ノ海ノ川ノウエウモノヲナセニヤワシガ海ハ早イ遊ノ

ヤウニ流レルソシテ云ニイ人ニ云ニイヲミルメト云ニヨツテサ

おき一少しよぬまもは海乃川ふみぶれるのまゝはアハ

○ワシガ云ハ沖ノ方ヘモ故タヘモヨラスニ信ノ上テミダレテアル藤ノ

ヤウニドチラノモツカズニ心ガ乱レテイツマテモハヤウニ云ニイノト

思フテバツカリ月日ヲタテルデアラウカ

あーおとのささくぐのけおまゝは海乃川ふみぶれるのまゝはアハ

○上 人ヲ今世ヤウニ云シウ思ワウトハ^四思ヒモヨラヌトヨ

人さしぬおのひまをささくぐのけおまゝは海乃川ふみぶれるのまゝはアハ

○常住人ニラサヌ思ヒラスルワシガ身ハ^外ニナイ 後海ノ富士ノ山ガサ

ワシガオチヤワイナセト云ニ思キノ山モ火ハモエズ常任煙ガ立テモエルサテ

さよものゝぬもぬおくしんあつきのゆいんをささくぐのけおまゝは

○イカウ海イオク山テハ鳥ノ声モセヌモノギヤガワクヲ井ノ奥山ホド

深イけワシガ心ヲ思フ人ハサウトハシラスサウナガドウゾ知テカシ

あまのゆいつけをささくぐのけおまゝは海乃川ふみぶれるのまゝはアハ

○相坂ニハシテアル^五本御ヲツクテ多鶴モ人ガ云ニイヤラオレト同シ

ヤウニ声ヲアゲテヒラスラ鳴ラ ちけゆいつけをささくぐのけおまゝは

おぼの言よ流るいそいそをうりーあひををれ

○上 イハズニ居ルテコワアレ心ニハタイテイ思フーニムナイ

うらやまけうんとまがまをぬちぬれや深きん成志ゆ人乃たりま

○ワシガ深イ心底ハ ウニ浮草ノシゲツテスエ又濁チヤカニテハ

深イ心底ヲ 人が知テクシヌ フカイコガんエヌサウチ

うらやまびくよづいあふ心むのあふぬハ河じとを思ふ

○サシツツテせんカタナサニ大キナ声ヲミテヨバツタナラ其声ハヨモヤコタノ

ヒツカヌ山ハアルイトサシフ 大キナ声ヲスバ必コタマノヒツク整リデワ

ガコレホトニ深ク思フーナバ アキラカラモスコシハ何トゾ思テクシソチモノチヤ

うらやまけるおあまがめいこいもろくー泥抱人ふあーを思

○夕ガヒニ人ノ心ガトリカヘラレル物ニタイモノチヤソシタラコチノ心トアキラ

心ト入カテテ片思ヒクルシイ抱チヤトニラアノ人ニ思ヒラサウニ

うらやまーてこいもろくーいも思はれ下ゆふいざむきびてむ

○今ノトホリニヘダツテヨフデ思シウセフテ居ルクルシイニ 西方ノ紐ヲ

一野ムスビノスヤウニ ドレヤコレカラハ一野ニ居ルヤウニセウグ

はドムあとりくふ或人云カクぬふ同心結くしやうあふよ

まゝんこいり。又今思ふふをりてこいもろくー家深きまや

まゝあふまきゆら水のこりぬく美がうけはあまよとけなむ

○春ニテバ氷ノ砂ラズトケサウニ 君心ハトウグオクコナウ我ニウチトケヨカシ

うらやまーそバ蜂のそりてくはくしよぬらきあめえアを涙を

ちくはあおおく...
○サノ紫へフツタ...
シガ神ガサ ナホキツウサエテキイワイノ

○上 イヤモウキツウクキエ入ルヤウニサエシイワイノ

竹材...
○川ノ渚ノ底ニエテナビイテアル藤ノ水ニカクレテシメヌヤウニ思ウ

人ニシラニヌエヲワシハミアスルヲカナ

みあのおかじ

かきこ...
○ニヤトカラ消ルヤウニワハ人ニエテ消入ルヤウニ相ヒラアスルヲカナ

あ系おき

天あ...
○ミヲツクニト云おハ油ノ中ニ立テアルおチヤガ

泣ク...
子テ居ルワシガオハトニト其ミヲツクニサナツタワイソニテソノミヲ
ツクニト云名ノトホリニ

君より海へ行くはかゝるもむひはあそりハ龜のえをみし

○君ヲ去リ思フワ胸ハ 思ヒノ火ガモエルケド 泣ク海デケセゴソアレ
モシけ海ガナクバ 衣物ノ手ニアタリハ 思ヒノ火テモエル色ニナルデアラウ

歌々

よきよき水邊までゆく海門ももこりぬみまこりゆく

○川ハ冬ハ氷ツテ流レガ上ルモチヤカワニガナクハ海ノ川ハヤウヂウ流レ

テサトゆく流レナイ 冬デモ氷ラ又水チヤワイ。子秋ニ。あしみるを。あ。と。水の味。ハ。譚。せ。ど。し。た。水との。澤。を。し。も。い。ふ。を。も。て。ど。て。あ。の。澤。法。を。思。ふ。又。は。み。み。な。こ。し。よ。く。ハ。あ。と。の。い。ち。を。ハ。河。を。い。ふ。も。あ。る。と。い。ふ。と。い。ふ。さ。と。い。ふ。し。

善治中も考やあふしむもとがしをす神乃むぢりてかこころ

○是ニ思スノトヨハをフ道一モあガオクヤラ ヨヒトヨ曼ニもたナカヨ

ウタ神ガヒツタリトヌレテ今ハカハカヌ イヤクヨウ思ハサウデハ
ナイ コレヤ海チヤワイノ

そとんは師

そらぬくて夏あもくをさつるおはゆーの底をおきうかりる

○冬チヨット夏ニテモ思スラヌタねハソノ船ノ底ガサハナレテ船トモナイワイ

ぬぢりてかこころ

心ゆくゆくあそりぬぢりてかこころ

○衣ニイフリヲシテウソニ泣テスセル後デアラウナラ 泣カ人ニ思セウトコ
ソセウケレイヤウニスニスラレマイトシテキル物ノ袖ヲシボルハアルマイニ

大にみ里

秋の夜もさびしき夜に神とていふ

○注テヤウニヒツタリトヌタ袖ヤケドモスガ同タラ春も三ツタヤトイハウ
ヤウーゆきころの夜

おがごとくおやうねしき郭の夜もさびしき
○郭公モオガヤウニ物がカナイカイ時ホナニ夜ヒタモノアヤウチゼナクヤラ

はるゆい

はつきのつゆをさうみほしきとぬるさぬる
○上注テツカリ居テウカトシテ心モツロナユラマアスルーカナ

九何月みつひ

秋の夜もさびしき夜に神とていふ

○一 暁ラスルアハル所モナイ心テハトト起居スルモフコテウカトソオホエヌ

清原ぬりやぶ

虫のさびしき夜に神とていふ

○人マヘラシメグユエニ 虫ノヤウニ声ヲタテハナカヌケレバ ナクニヨウデハ
海ヲナガレテバツカリヤラリスワイノ

是夜みこは家の方合はる しみんーらび

秋の夜もさびしき夜に神とていふ

○ヒトリ子タ夜オレガ注クハ 秋デイウナラ山子ウヒクホトニク鹿ニモオ
トラカカオハ鹿ヨリナホキウ注ク 秋の夜もさびしき夜に神とていふ

たれくくいもさびしき夜に神とていふ

秋のゆく

つら

秋のゆくふもてて咲る花の色はよき物と思ふ

○上 ^ユけゴロハイロくサマぐニ心ガミダシテサテモくお思ヒラスル^トカナ

みつね

ひとりしとおも思ふ秋の目けいさむものさすり人のあは

○ひとりばヤウニお思ヒラシテ心ヲ名シテ居ルニ ^三いるむの ^ツツヨ

^オダウリヨト云テクル人がナイ ひとりしとお思ひつゝ思ふ

思ふのさしづめはつひぎぬなり

ぬらやぶ

人と思ふも思ふあはれも思ふも思ふのさしづめはつひぎぬなり

○人ヲ思フ心ハ居デハナケレ居ルニテウラマテワタルヤウニサテモくワカハウ

かくトウハウラニウテマア泣テバツカリタテル^トカナ 餘技ニこのうけはに

かとしかりそめのさしづめはつひぎぬなり 打開さめのえげさすりうけを

ゆめみ

秋風ふらゆるを思ふは夢あはれさうねく人のさしづめはつひぎぬなり

○自身トヒキナラス琴ノ声ノ秋風ノ吹ヤウニサテエルニマデ人が思ヒイ^ハヤ

ウナチヨツトシタ^トニマデチキニヤウニ思フハドウシタコトチヤヤラ

○秋云譯ニ自身トヒキナラスとある自身と云ふはさしづめはつひぎぬなり

とれはみづうらやみづあはれさしづめはつひぎぬなりと云ふはさしづめはつひぎぬなり

とれはみづうらやみづあはれさしづめはつひぎぬなりと云ふはさしづめはつひぎぬなり

つら

まことし加るほのきはなぬふもはほのふりしふやうららるるが

〇一二

ぬがフバウツトシウおサビイをニツ子ヨリモカスツニガマサル

やまやふゆりもくふつりりり

あえぬまのふしやせは乃さくくもくはてふのそはくくく

〇ツチノ大和おへマダコエテイカヌウチハスタイト思フ吉野山ノ花

ヲ人ノナニバカリサテラスヤウナモテ大和ニゴザルカマノウラ

ワシガたゝゝ思フノモソノをリヂヤア、ニキナノカナ 初をハ

ゆもぬまうちとゆもふいつはあふん

やまひを^{ジブシニ}ふもの^{イヒケニ}くのもやふ又人まら

つしせうそとせうそとせうそとせうそとせうそとせうそと

あふぬまのふしやせは乃さくくもくはてふのそはくくく

〇花ニハあがオクモノチヤガソノあデハナイワタシガ心ヲオマヘノ花ニオキ

ソメテ井ルユエニ 風ノフクタビニ 花ガヨソヘチラウカトソコハ心ガツイテサ

思ヒコトガゴザルドウカヨクチリサリナウハサモチラトウケタマハツタヅエ

あふぬまのふしやせは乃さくくもくはてふのそはくくく

あふぬまのふしやせは乃さくくもくはてふのそはくくく

あふぬまのふしやせは乃さくくもくはてふのそはくくく

〇暗部山ノ桜もノサイチウトヒモナニチルぬハオビタビシイコテアラウ

ケレバワシガシゲウ思ウゑノ教ニクラスベタナラマサリハスマイ

あふぬまのふしやせは乃さくくもくはてふのそはくくく

あふぬまのふしやせは乃さくくもくはてふのそはくくく

況もあし月影をよみて

ぬるやぶ

あひあまばらぬがなをたぐよのちけつ子ねき物といひはらととも

○ワシガモシをリテ急死がナラバツレイ人ハ深養父ハカワイヤワシユエニ
死ニタトハイバズニタビ下をリニ世中ガ無常ナ物デ死ヤウニ云ヒナシテオ
クデカナアラウカタトヒサウハニキナストモ 世間人ハヨウ知テ居バニホカ外ノ事
デ死ニタトハ云マイ 君ユエニ死ニタト云ヒラシテ君ガ名ハ立ツテエラウ

笑へく

津のふら難波の河に流るるに志なき水も流るるや

○難波ノ芳ノルカニ云エル事デヒワシリトゲウハテアル如クニシゲイハワシダ

恋ヲ思フ人ハカウトハ知ウカイコホトテラウトハ知マイ 其もとるふと

海ノ下ニ流レテ流るるもの之ノ草ノ葉又流レ去ルものさへはし
るもゆきて月日へおぼろるるまらおきあしよりいしを移しぬ

○弓ヲ久シウ手モサヘズニオクヤウニ思ウ人ニ久シウアハ子ハこゝろ人ノ事バツ
カリ思ウテ ねルハ子タリオキナリシテヨメモサ子ラレヌワイノ

人志もぬおもひのこころをいづるもつが終きとばぬめいごとくは

○思ウ人ニ知ラレヌ恋ホドサナシギナコマツタ拍ハナイ けワシガ歎クノヲバ
ワシバツカリガサ 知テ井テ ソノ思フ人ハ子カラシラヌチヤ

とてこのこと

あしふせいでぬむらうぞみよおほいしなむりていよあむい

後ふぬりそをぬりきふよみくはるはりき

左京業平朝臣

かきもせど祓もせじくは成ゆそはそのおとせぬあふしつ

○オキルデモナシルデモナニウウラくトシテ夜ヲマカシテハ又昼ニナレバ

ナレバ空ノヤウニ長あまき物テ一日ナガメテニキニヌフテクラスヤ

なりゆは朝臣のあふゆはる女のゆはるよとそ

つうーとそゆ

とーゆ朝臣

はるぐのぬがふまする海川神のこぬねてめよーとそまじ

○ウチヅイテ日ヨリハワルシ日ハセシヒミデサビイニウケテハイヨクニキテ

ナガメラシテ海川ノ水ガミテ袖ガヌレルハツカリテワシテ川ノ水ガミセバ

ワタラヌヤウニ逢ハレサウナモヨウモナイ

かの女ふらりて笑よあはれとゆはるの朝臣

後ミそを袖をむづめ海河をえんあがるときうばあめのみむ

○袖ガヌレルトオツシヤルガソレヤオヘノ海川ガ後サニササウデアラウ

神バツカリヌレルグラ井ノ後イデーハ朝ニナリセヌ身ニテガ流レルト

オツシヤルクラ井ノ海川ノ原サナラソレデハ朝ニニ後ニセウ

餘材オツサハの夕の流るし。あまあがるとはだど神のこ

むづふむうて海きこむはいつのそんあはるささハまじ

影しつらむど

よみ人あはるむ

よるべると夜アとまきくへそつ色んを夫ガ影し形りゆき

○近ウヨルテズナガサニ身ヨツカウシテ遠ウヘダテ、居レ 心ハジャウヂ
 ウオマヘノフバラハナレセヌ 詠フヤウニトウカラ心ハオマヘニウフテ居ル
 竹材小枝ハヨるこつふしをよるべといふとつづかむがごとく
 さつこくしるし引く方糸のなればハ可のきさうとくぬ結ゆふ
 つづぐにゆきてハ来ぬる物ゆふ見すくほしふいざりれつ
 ○行テハムダニカヘウテクルモノノクセニ急タイト思ウ心ニサスヒテハ又ニテモ
 イキ又シテモイキスルワイ ドウステモトカク急ダサニサ
 あらぬ虫のふるふをしほりさるるまゆふとものふけぬまゆふを
 ○雪ノワモルヤウニ急ヌ夜ガイクヨモくツモツタナラを急ノ消ルヤウニ
 ワシテガ共ニ消ルデアラウト思ハレルモノヲ サテモアハレヌトカナ

けろハわろ人のましく橋本人まろがろり

なるもひの物

秋のやふ藤ふし河まの神もろも河へでしよぞむぢきん
 ○秋ノ野テ備命ヲ分テトホツテキタ秋ノ袖ハキツウ急デヌレル物ガヤガ
 フヨリモ思フスノ変イテエアスニ戻テキタ夜ガサナホキウウ候デ袖ガヌレル
 小中、小町
 みる免るきさゆふとらとと糸糸ばやかき物で河はあしあしあく
 ○海松ノミイ浦チヤト云フヲシラスニ 海士ガミルヲ 荻ウト思フテヒタモ
 来ルヤウニアノ人ハ口シガ身ヲドウモアハレヌオチヤトハ 知らシヤラヌカ
 シテ一巻モカサズニ足ダレイニ 毎夜く急ウト思フテ見エル トテモ

へりしりふりつりつむぐしん破浪のめくおきてあはるるにゆきと
ろふ入るるいふとを強きしんおほいけきふよりて強なり

あつしりつれおしあつ

あつしりのおきさしあしよる浪あきびうしみてのそぞきうりりる

○浦ノ破バダヘヨツテクル浪ノチキニ引テ沖ノ方ヘカヘルヤウニをさるモナイ
人ノ取ヘイクロジレバイツテモソノ人ヲ恨ニテバツカリサカヘルロイ

よみんきしん

かひてよも風ふき浪はあきやあつしりおきふきしりりる

○マダをターモナイサキカラ早ウ名ノ亭ハ云テ足ヤウナラ浪ハ風ガ吹ニ
ヨソテタワモノチヤニマダ風ノフカヌサキニマヘカタカラナギニ浪ノタツ

ヤウナおカミラヌ ナゼニハヤウニマダ早ウカラ名ノタツトヤラ

くわいみ

みちれくふりりしりおき名取川を記名とりてバツトヤラ

○上 ナイコヲ云タテ、名ヲタテラシテハメイワクナコトチヤロイ

みもりのあつしり

何やあつてまふ記さき名の立田はしりてやまむおあしあふ

○マダ早ウカラハヤウニ名ノタツハワケノタヌトチヤトテモカウ名ガ
立タカラハドウニテナリ凡 逢ハズニオカウモノデハナイ

ちやあし

人といふはあつてまふ記さき名のきりたればあつても今とあつてまふ

○人ハドウアルカワシハナイコラニタテラレル名ガ惜ケレバ
ソシナコハシリニセヌトズウ

よみ人あし

あつとぬふもなすもさるるらぬ
○ニカタモナイコラニタテラレマイワクニタテガアツタガソレヨリモセズニ又ドウ
ヤラ名ヲタテラシヤウニ思ハレル^五世中ノオラヒテ^四ニクウチイ人ガアルテサ
初むうけむ條^{ナニヲコシラテオイト}ふくとをりあまてしやかりうふ
らして志のびまゝあつるれをかどよりしえついで
かきれるがとよりかひりくはあびうさゆりり色バ
あつとぬふもなすもさるるらぬ

よのらまればわきりれどえつとぞのこかりてよ
てやうとる家 かなまひりね

人あまぬがよむいぢれ冥ちハよひくむにうちも秘ちむ

○人ニシラサヌオレガ色ヒミナノ冥和ノ番ハドウツ毎夜ヨロクニチヨツ
トナリト子ムツテクシカニ ソシタラソノヨニハイラウニ

おとよと けしやう

あつとぬふもなすもさるるらぬ

○ズイブンカクニ忍ブケレバ キツウニイ時ニハエコラヘズニ 月ガ出テ
ヨウズエルノニ ヒヤウニ知テサクルワイ 又三日の白ハ

の影のこもるる

よみくしり文

あひくしてふふあふいぞりほのゆつきをばけうぎもけうむ

○ハライゑくテタラクコヨヒ始^ぞメテサカ^タニドウゾ今秋ハををハ

アナイテクレ子バヨイガ 鳥ガナケバオキテ列レ子バナラヌニ

をのこまら

秋の夜も名のしりるるしをきりてしをきりてしをきりてしを

○秋ノ夜ヲ長イ物チヤト云モ名カリザワイタラクゑい久ニアウ夜トイハ

コレガヨトキモナニ ツイテウ明モラ ナン秋ノ夜ガ長カラウツ

元河内みつ子

きしとと思ひぞとぬきよりけし人し秋乃をなれを

秋ノ夜ハ一タイハ長イモノチヤケレ^ル アウ久ニヨツテ秋ノ夜デモミジカウ

オボヘル物チヤ^ナ 昔カラモ云トホリテ 此^ノ秋デ長イ時キレ^レレ

スイタ久ニ色タ夜チヤニヨツテ 長イ^レサドウモ思ヒキハメラシヌ

よみくしり文

あひくしてふふあふいぞりほのゆつきをばけうぎもけうむ

○目ガサノテ 夜ガクワリツト^ハテクレバ 一ツニナツテ子テ居タ久ノキルモ

ノガ別クニナツテワカレガ^カカナシイ 打^ツテガ^クの^後ニ

録^キぬ^ぐの^後い^きう^たぐ^り 面^とり^きら^とき^ぬく^とハ

い^とぐ^子秋^云結^白 羽^伝あ^ふき^らと^から^しき^くあ^らと^よ

ろ^くか^るへ^きら^とと^あら^とり^ぶす^也 ち^とあ^らふ^又云^字の^強

らさへもおきらむくもあつらひ物ぞききそくねき

○ケサニア 別レ心カ乱レテ ドウテ 紀^{オキ}テキタヤラ子カラオホエナニカモ

ヲ思ヒダシテ今サキエルヤウニカナシイ ちす日新の流あまどさまをい

人ふきておふみて遊ばるならし印の如た

秘の秘のまをそくからそまどめバハヤイウねふもなり備きかみ

○ユフベヒテ孫^子タノハドウデアツタヤラ後ノヤウデアリハカナサニ セメテハホ

シ後ニナリルニイチドスヤウト存ジテ 眠ツテミド子ラレモ波サバ 後ニ

サヘエスイデ サテモくイヨくハカナイトニナリスルカナ

業中、然にのいせれゆりゆりくらとる時分まあり

くく人ふいしみをくふあひくみけくふ人やふら

なうて思ひをりきるけひごに女乃もやよりおこせ

くゆりきる

まみ人あしご

君やこーんやゆきはまおもやいごまうつらゆそくさあそ

○ユフベヒハオミハガワガ方へ出サウタデアツタヤラワガオミハ方へ来

ワタデアツタヤラ 又後デアツタカホミノデアツタカ 眠ツタ内デアツタカ目ノ

差^サテ居内ノデアツタカドウデアツタヤラワヤ子カラ差^サテオミハドウチヤイナ

のー

なるし印あね

かきくしん心乃やふよどひしれまうつらハ女人さくどねよ

○サイナテブのハイウソ心カクラガツテ^ヤ夜^ヤライクヤウテ ドウデアツタヤラ

ワレモサ 一向差^サテセヌ 後デアツタホニデアツタキハ世^セ人定メテクレイ

おとこ

よみく

うむのやまはうつはけごうねまふふくしきまらさけり

○写イノニキヨットをタノハホニノヨテモタシカナ後ニ何ホドモサ
ツタコトハナイワイ 後ニヌタトはシクラサノコテアツタ

さよぬまて河戸のとははる月影ふわくともあはれをえつるがね

○上 君ニをテサテモくマアノコリオホカツタコカナ

ニの夕のよみの、ほよそ上白あつとの存あるべし万葉おほまし

君が心もろがなもあてじねおもあるみゆきもつちあはれひきまもあはれ

○ドウゾオヘノ名モワガ名モヌヤウセワ三ツ三逢タトオヘモイハヤルナワモオ
ヘニ逢タトヌイホドニあひきハ逢波の娘ハ細川よひをせとく

名取門せびりもれ本ゆいせびりふとくけひんそをきむ

○二 世るへしレテ名ガツツタラ ドウセウト思フテをツメタコヤラ

うや川あはれむをやくととけのきりいことどきどおもふ

○吉也川ノ水ノ早イヤウ心ニヤセナウ思フ所ヤウニ音ハ多キイトサワヤ思フ

衣くいそを思へむされの根もりのなつらふいづりまゆえ

○衣シウ思ウナラ心内デ思フテ居名ヨイゾ三四 色ニカステイゾカナラズく

そのくもあうせ

苑もれあふ知くらひバあを情み下ゆむものむさをがきほ

○アラハシテ思フタナラ名カタツテアラウトソレガヲサニ心内デバツカリ思フテ

ムヤクニヤトシテサテち苦ニをラステヤ おヤ下ゆの鏡サヒビ伝サヒビり

仔細

まろしつを枕ぐよきを神おとらてぬぬのやふまを

○ナニボカクススミテモ 枕ハヨウ知ルト云フキヤニヨツテ ワシヤ枕サヘセズ

ニ寐⁺タモノヲ 誰ガニア知テ ウキ名ガバウト云フウキタ⁺チヤ

ヤラ塵コソテハバツトタツ物ナレ 塵⁺テモナイウキ名ガサミア

やんがふんはれまの終



